

編集・発行
海老名市役所秘書広報課
〒243-04
神奈川県海老名市勝瀬175
☎(0462) 31・2111

えびな

第53回 国民体育大会
かながわ・ゆめ国体



平成10年秋季大会
10月24日～29日
◇本市開催競技
ラグビーフットボール
(運動公園陸上競技場)

「ゆめ国体 海老名の風に 光る汗」

この広報は再生紙を使用しています。



練習あるのみ「継続は力なり」
努力すれば良い結果が...



歩くことは健康に良いと言われていますが、ある一定のルールをもつて、いかに速く歩かを競う「競歩」という競技があります。平成10年に開かれる「かながわ・ゆめ国体」の陸上競技の一つです。カラリと晴れ渡った寒い日の朝、運動公園のブルートのトラックを黙々とひたすら歩く人がいます。浅野輝彦さん(大谷在住、55歳)は競歩と出会って30年、体力の続く限り歩きたいといっています。

21世紀へ歩き続ける 記録への限りない挑戦

〈競歩の基本的ルール〉

- ① どちらかの足が必ず地面に着いていなければならない。
- ② かかとから着地する。
- ③ 着地したときから、重心がかかるまで、ひざが伸びていなければならない。

鍛えられた体と
精神力が試合の
原動力となつて
記録も向上



くよくよしない性格。先行逃げ切りで試合に臨む浅野さん



高い目標を掲げて練習

浅野さんが、競歩をはじめるときは、昭和45年に東京都大田区の競歩大会に飛び入りで参加、見事に優勝したことに始まります。中学生のころから長距離はやっていましたが、競歩は初めてでした。端からみると、ただ歩くだけで簡単そうに見えるようですが、実際にやってみると、ルールが厳しくて、奥の深い競技であることが実感。本格的に競歩をはじめてからは次々と輝かしい記録を樹立しました。昭和41年から東日本実業団大会30年連続出場、神奈川県選手権大会16年連続優勝、メキシコ、ミュンヘン、モスクワ、モントリオールオリンピック強化選手にも選ばれました。すべては、本人の努力の結果であると思っています。

「常に目標は高くもつて練習しています。記録の向上を目指し、練習は毎日欠かさずやっています」と話す浅野さん。平日は、朝4時に起床、川崎にある職場に着くと始業前まで多摩川の河川敷で練習。仕事が終わると、トレーニングジムで水泳をして体をほぐす。休みの日は運動公園のトラックでスピード練習をしています。「ただ健康を維持するためではなく、試合のことを考えて、記録をねらつて練習しているので、あえて自分の体力の限界に挑戦しています」と。

競歩は孤独な競技といわれています。一本の道をひたすら歩き、「苦しい、もうやめよう」と思うか否かは自らの意志次第です。浅野さんは、競歩を通して、集中力と強い精神力を得ました。「健康であること、チャレンジ精神があるから、やってこられたと思います。努力すれば必ず良い結果がでます。継続していくことが大事です」と話す浅野さん。当然のことながら、年齢を重ねていくと体の故障との闘いもあります。とくに疲労からくる腰痛には、石を温めて腰に巻いたりするそうです。練習以外に普段の生活でも気を配ります。食事でも野菜中心にして、夜9時以降は食べないようにし10時には寝るようにしているそうです。これは家族の協力があるから。「休みの日は練習や試合などで家をおけることが多いですができるだけ家の手伝いもしています。息子も長距離をやっているので、競歩を教えたこともありません。ただ、最近はおやじのいうことも聞かなくなりました」と笑って話す浅野さんの額からは汗が輝いています。

「5月に行われる東日本実業団大会に出場して好成绩を取りたいです。その後も神奈川県大会があり、9月には、大分県で開催される全日本マスターズ陸上にも出場したいです。もちろん記録と優勝はねらいたいですね」と表情が引き締まった浅野さんは、また、黙々と一人、練習を続けました。体力の限り歩き続けたい。自分との戦い。練習で培われたものは、力強い歩みとなつていきました。一本の道を歩く浅野さんの姿は、たえず高い目標を掲げてきた精進の表れであると思えます。記録への挑戦を始めて30年がたった今、さらに21世紀へと歩き続けていくことでしょうか。

医療センターで 夜間診療がスタート

海老名市医療センター(さつき町41番地)で、去年3月の開院から、休日急患診療(内科・歯科)を行っていましたが、今年から、医師の夜間診療がスタートしました。また、CTスキャン、X線テレビなどの高度医療機器によって検査を受けることができる、検査センターも充足しました。

急患診療所

夜間急患診療は、去年までテレビホンサービスで市内の当番医を紹介し、診療を受けていた状況でしたが、今年からは、さつき町地の北側にある、海老名市医療センター内の医師会問合室で、市内に在住、在勤を問わず、どなたでも受診することができ、検査センターも充実しています。

重症の場合は

重症・大けがまたは、夜間診療終了後の深夜の場合は、テレビホンサービス(☎32-0108)または☎32-0119、および市役所(☎31-2111)で市内6カ所ある二次救急の当番病院を紹介いたします。なお、命にか

かわる重症など、必要に応じては救急車を依頼してください。

休日診療も
医療センターでは、夜間だけでなく、急患診療として、休日診療も実施しています。ここでは、市医師会の協力を得て、市内診療所の医師が当番制で診療を行います。診療後には、薬も処方しておよび診療費を持参してください。夜間診療所は、医療機関と同じで、市内に在住、在勤を問わず、どなたでも受診することができ、検査センターも充実しています。

検査センターがオープン 予約で待たずにスピーディー

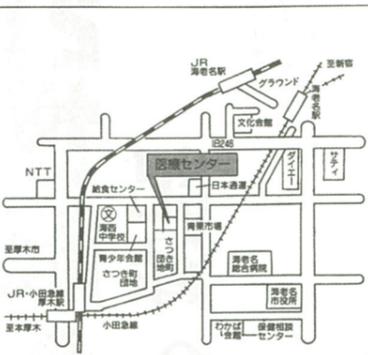
医療センター内に、今年1月から、高度医療機器で検査ができる、検査センターがオープンしました。ここでは、地域医療の充実を目的に、医師が自分たちの病院などで設置されていない、高度医療機器を共同で利用し検査を行うことを目的に作られました。

かかりつけ医師が 申し込みを行う

検査を受けるには、まず、日ごろ通院されている、かかりつけの医師が、検査センターに申し込みを行います(検査を受ける方が、直接申し込みをするところも、直接申し込みをすることができます)。



地域医療の拠点医療センター



- 海老名市医療センター ☎34-7007
(さつき町41番地)
急患診療所(内科) ☎31-1912
休日歯科診療室 ☎31-1939
訪問看護ステーション ☎34-1213
さつき町在宅介護支援センター ☎34-7226
検査センター ☎34-4554

診療科目	内科・小児科・歯科
診療日	日曜日・祝日・年末年始(12/29~1/3) 昼間 午前9時~11時30分 午後2時~4時30分 夜間 午後6時~8時30分(歯科は夜間休診)
受付時間	平日(土曜日をのぞく) 夜間 午後7時~9時30分(歯科は夜間休診)
電話	☎31-1912(内科・小児科) ☎31-1939(歯科)



高度な検査が受けられます

訪問看護ステーション

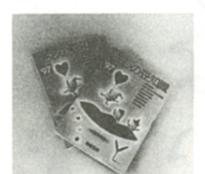
医療センターの2階にあり、ねたきりなど、在宅で療養されている方のために、看護婦が週3回まで訪問して看護や相談に応じます。利用するには、かかりつけ医師にご相談ください。

さつき町 在宅介護支援センター

医療センターの2階にあり、高齢者などの介護をしている方のために、介護全般について24時間無料で相談をお受けしています。介護機器の展示や、購入・レンタル等の紹介や、無料で手続きの代行も行っています。

くらしの豆知識97年版

市では、消費生活の安定と向上を図るため「くらしの豆知識97年版」を作成しました。この小冊子は、現代社会における子どもくらしに焦点をあて、その問題点をまとめた「現代の子どもの生活」を特集としたほか、消費生活に関する知識の話題や衣食住生活健康の知識などを取り上げ解説しています。この本を希望の方に差し上げますので、市役所2階商工課へ直接お申し込みください。



市役所2階商工課へ直接お申し込みください。

第26回 市駅伝競走大会



午前9時、スタートの運動公園を出て行く第一走者

有馬高校Aチーム26秒差で優勝

第26回海老名市駅伝競走大会が1月12日、海老名運動公園陸上競技場をスタート・ゴールとして行われました。

大会は、自治会対抗(参加6チーム)、一般対抗(同34チーム)、中学生男子対抗(同9チーム)、女子対抗(同6チーム)の4部門、全5区間(中学生男子対抗および女子対抗は6区間、最終区間で猛突進と追いあげる市役所Bチームを振り切り優勝しました。有馬高校は、第15回第17回大会以来3回目の総合優勝。

- 各部門の3位までの成績は次のとおりです。
- (自治会対抗の部)
①西沢橋 1時間12分4秒
②上今保 1時間13分51秒
③杉久保 1時間15分32秒
(一般対抗の部)
①有馬高校A 1時間5分21秒
②市役所B 1時間5分47秒
③海老名消防 1時間9分1秒
(中学生男子対抗の部)
①今泉中学校陸上部 1時間13分32秒
②大谷中学校野球部A 1時間16分1秒

市政 市広消費生活

モニターを募集します

市役所では、建設、都市、環境、福祉、教育など市の行政施策に関心や意見をもちたい方は、ぜひこの機会にご応募ください。

①応募資格 市内在住の20歳以上の方(ただし、公務員など公職にある方、市政モニター経験者は応募できません)

②選考 応募者の中から地域、性別、年齢、職業等の構成およびバランスを考慮したうえで、多数の場合は抽選で決定します。

③募集人員 20人

④期間 平成9年4月~同10年3月(1年間)

⑤役割 市政を深く知っていただき、率直な意見や提案をしていただきます。

⑥内容

①モニター制度 市政および予算の概要学習

②市政に関するテーマ会議の参加 市制と対話・懇談形式で年3~4回実施(原則として平日に開催)

③施設見学の参加

④アンケート・提案モニターカードの提出(随時受付)

⑤謝礼 年額1万円以内

⑥応募方法 地域活動課へ3月7日(金)までにハガキも

広報

日頃の広報活動に助言をいただき、より良い広報づくりにご協力をお願いいたします。

①応募資格 市内在住の20歳以上の方(公務員など公職にある方、広報モニター経験者は応募できません)

②募集人員 30人

③期間 平成9年4月~同10年3月(1年間)

④活動内容

①「広報えびな」などが発行する広報、刊行物の批評

②モニター会議(年6回程度)への出席

③市が主催する各種の取組

④施設見学の参加

⑤モニターカードなどの投稿

消費生活

消費者の意見や情報を収集し、消費生活行政に市民のみなさんの意見を反映させるため、募集します。

①応募資格 市内在住の20歳以上の方(公務員など公職にある方、消費生活モニター経験者は応募できません)

②募集人員 30人

③期間 平成9年4月~同10年3月(1年間)

④活動内容

①価格調査

②モニター会議・消費生活講座・施設見学の出席など

③謝礼 年額1万円以内

④申し込み 3月7日(金)までに電話、またはハガキで商工課へ。ハガキには、住所・氏名・生年月日・職業・電話番号・応募の動機を記入してください。

⑤問い合わせ 商工課(内311・512)



カメラを前にガッツポーズ。うれしそうに有馬高校Aチーム。写真前列左から中村紀さん、石崎太太さん、後列左から山下将人さん、奥脇康史さん、飯島智志さん。

思いつくままに

「今や、見るスポーツから、して楽しむスポーツの時代。これこそ、生涯学習スポーツの原点である」と、教育長時代から口にしていました。が、56歳から始めた下手なゴルフ以外は、有言不実行者です。

「ですから、家を居るときは、ごく自然にスポーツ番組のチャンネルに手がいきます」

テレビのスポーツ番組

日曜日、あまり家に居ることはありませんが、テレビの前に、巨体を横たえ、観戦となります。ちょうど、マラソン、駅伝のシーズンです。まさに、極楽、楽しいときです。

15ヶ月前後は、先頭グループが30人ほど、互いに、けん制し合っています。20までは、いつスタートしようかと、互いに様子うかがっています。

このころから、選手の方走とは逆に、眠りに入っていくようです。家人の手によって、テレビのスイッチが切られます。「眠っていいよ、いや、眠ってないの」の一言ほどあり、再度、自分の手でスイッチオン。画面では、2~3人にしぼられラストスタート。ときには、独走となりゴールも近い状況。つらさ、選手が、デットヒートに達しているとき、安らかな眠り。不謹慎ながら、絶好の休息となるテレビ観戦が待たれる昨今、海老名市長 亀井 英一

海老名むかしばなし

老名市史の一断面)。この事からも身分制度・身分意識の変化が感じられる。

杉久保村と本郷村の一部を領有していた旗本の神尾福三郎の側室加代は元は江戸の商家の娘で、神尾家で女中奉公をしていた。側室となったのは自分の甥を小侍に姫を養育したことに神尾家の家政面に力を持ち、福三郎の養女多満(福三郎は養子で多満は神尾家先代直直の養子)をいじめた。多満は井戸に身を投げた。自殺未遂をする程であった。福三郎は妻(多満)は病死する直前に杉久保村神尾家の名主治右衛門に多満の保護を依頼した。多満自身も江戸の治右衛門の宿所へ来て窮状を訴えた。(元、杉久保・高橋正治家文書)

慶応四年(一八六八)七月(九月)に明治と改元し、福三郎の養子となり神尾家を継いだ。明治になり、豊橋は杉久保村への土着も考え、一時家族を同村に滞在させた。また豊橋は杉久保村の高橋治右衛門やその子千嘉松等に二〇両の借金を申し入れたが、その手紙には「高橋次(治右衛門)・同千嘉松様と様方に二〇代と若く、杉久保・高橋正治家文書。神尾豊橋は二〇代と若く、しかも神尾家の当主になったのは福三郎の側室であるが、また借金の依頼とはいえ、この手紙の字句にはかつての領主層の意識の変化が感じられる。

幕府崩壊後、本郷村の領主・半井氏の奥方一行が同村の真光寺に一時滞っていたが、奥方は子供好きで村の子供を背負ってかわいがったと伝えられている(「海老名市文化財資料集第九巻(本郷編)」)。個人の性格の問題もあるが、ここには幕府の御典医・半井龍庵の奥方としての気位の高さは感じられる。

天保一〇(一八三九)年の幕府の御典医(注)に、三河国(愛知県)田原藩士で渡山山守の弟子であった中島政永は武士を捨てて大谷村に土着した。また明治になつてから、本郷村領主半井氏の家臣中山虎男や、門沢橋村領主長谷川氏の家臣村田徳右衛門はそれぞれ本郷村や門沢橋村に土着した。

(注) 幕社の職・幕府の外国船打ち払い政策を批判した際で、高野長英等の蘭学者と、同志の田原藩士渡山山守が処刑された事件。

(細川光成)

海老名むかしばなし

江戸時代後期から幕末になると、領主(特に旗本)と領民、武士と平民の身分制度にも変化が見られる様である。また幕府崩壊後顕著となる。この事を海老名に関係するいくつかの事例で示してみたい。

一八世紀前半以降、海老名の村々(全部か一部かはつきりしない)は将軍が鷹狩りに使う鷹の訓練場である御鷹堀(堀)に指定されていた。地元の有力者が任命される現地の管理者を野廻りといひ、幕府から扶持料を支給され、苗字帯刀を許されていた。中野村の落合次郎左衛門と門沢橋村の神部善八が、それぞれ天保の頃と天保の頃、共に一八世紀前半に野廻りを勤めていた。二人は元、名主であった。

領主から扶持料を支給されたり、人格にされて家臣に準ずる扱いを受けていた人々には、国分村の池田善六、中河内村の尾上佐右衛門・中野村の金福兵衛がいた。実際には他にもあったであろう。いずれも村の名主層であった。

名主層の中には武士の養子や妻になる人もいた。中野村の大島三郎重三郎の五男は幕末の根来組重石石田氏の養子となり、二女は大番組・多田喜六郎の妻となった(大島家史と其郷土誌)。社家村の落合源右衛門の娘の中、二人は大番役・羽太清右衛門の妻と小十郎組・平岡又兵衛の妻になった。また落合次郎兵衛(源右衛門の子)の息子は安永元(一七七二)年に北条安房守の家臣土屋氏の養子となった。但しこの二人は兄の死去により戻って落合家を継いでいる(「海老名市文化財資料集第十巻(落合編)」)。幕末に本郷村に孫兵衛の娘は豊後国(大分県)臼杵城主福永守守の家臣足田万五郎の妻となった。

中野田村の名主・大島三郎重三郎の長女は大名の毛利家と細川家に「老女幾多・老女子代野」として仕えた。また三郎重三郎の二男は厚木村の商家・高部氏の養子となり高部大吉を名乗るが、武士にすぐれ、剣客として諸国を遊遊した事がある(「大島家史と其郷土誌」。高部大吉の剣術は天然理心流であるが、これは近藤長裕が創始し、幕末には江戸近郊の一部の豪農に広まっていた。宗家四代目以後は新撰組局長となる近藤勇であった。

天保二(一八四一)年一月に中野村天野領(中野村の中旗本天野氏の領地)の名主落合利七郎は、資金の未返済で用田村(藤沢市用田)天野領の名主伊藤(夜孫右衛門)を領主天野氏に訴えた。同年二月五日の夜利七郎は江戸の孫右衛門の旅館にいたが、天野氏の隠居(前主)が供もつれずに来て、孫右衛門への貸金を動員する。利七郎への説得を試みた。その後、天野氏の隠居・利七郎・孫右衛門の仲人である本郷村半井領の名主・一郎兵衛の四人で料理茶屋で酒を飲んだ(「海

"ごみ問題" 避けて通れない



処理経費に年額16億円!

社会生活を営むには、さまざまな決まり事や約束事がある。その中でお互いが助け合い、協力しあうことが大切だ。ごみ処理についても同様で、生活するうえで毎日発生するごみ処理についても、社会の責任として当然の義務である。いまや避けて通れないごみ問題を考えよう。

表のとおり、平成7年度の「ごみ処理経費」は、約16億5千万円となっています。1トンの処理経費は、5万7千円と高くなっています。

	4年度	5年度	6年度	7年度
ごみ排出量	27,127	27,306	28,075	28,931
年間処理経費	1,432,956	1,463,868	1,565,491	1,655,321
1トン当たり処理経費	52,824	53,610	55,761	57,216
年間1人あたり排出量	247	245	249	254

ごみ処理経費は、約16億5千万円と高くなっています。1トンの処理経費は、5万7千円と高くなっています。ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。



ごみの削減は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。

4月から透明・半透明ごみ袋による収集を開始します

市では、ごみの排出量の削減と資源化を推進するため、透明・半透明ごみ袋による収集を開始します。ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。



ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。

3原則

- ☆決められたものを
- ☆決められた時間に
- ☆決められた場所へ

ごみについての問い合わせ先 海老名市役所資源課 ☎31-2111 内線541

皆さんご存知ですか



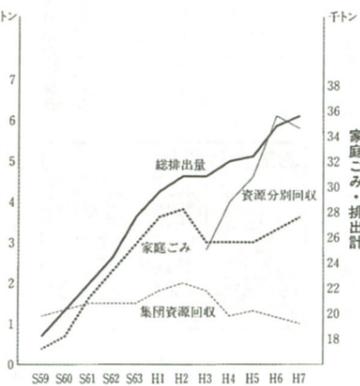
1台当たりの処理費 91,000円

1世帯当たりの年間処理費 40,000円を超えます



事業者の皆さんへ! 事業者自らが処理することが原則です。ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。

資源分別回収・家庭ごみの年度別推移



	回収量(トン)	登録団体数	売上金(千円)
平成4年度	1,222	118	6,186
平成5年度	1,412	115	4,061
平成6年度	1,212	100	3,284
平成7年度	1,114	93	2,929

	缶類(トン)	びん類(トン)	紙類(トン)	布類(トン)	合計(トン)	売上金(千円)
平成4年度	581	1,052	2,288	183	4,104	30,927
平成5年度	630	1,102	2,631	210	4,573	28,536
平成6年度	773	1,357	3,834	272	6,236	38,215
平成7年度	727	1,231	3,836	272	6,066	42,718

ごみ集積所から一言 「海老名に住んで18年になります。年々ごみは多くなっています。ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。」



集積所に出せないもの処理方法 「粗大ごみ」 家具や電気製品等の縦横、奥行きが2メートルを超えるものや重量が単体で30kgを超えるものを、粗大ごみとして回収します。

ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。

ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。



ごみは持ち帰りが原則です。ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。



ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。

ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。

ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。

ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。ごみ処理は、市民一人ひとりの協力によって達成されるものです。

消防関係者が勢ぞろい

1月14日、市役所催事広場で「消防出初式」が行われ、消防関係者や市民ら約800人が参加した。当日は、消防活動や火災の早期発見、人命救助などに貢献された方への表彰の後、市消防署などの模範演技が行われた。また、去年12月19日には、市消防団の第2・7・10・11分団に最新消防ポンプ自動車、市消防署に2台目の高規格救急車が配備された。



分列行進に参加した市消防団
火クラブ防



フオードピツクス



小島 耀介くん
1歳

あんよも上手にできて、家中歩き回っています。早く春が来ないかな...お外で遊ぶのが楽しみなんだ。(大谷、小島真樹・優子さんの長男)



塩田 かのりちゃん
1歳1カ月

好き嫌いもなくなんでもよく食べます。「こんにちわ」「ごめんなさい」と言っておじぎができるようになりました。(上今泉、塩田弘二・明子さんの長女)



山下 瑞貴ちゃん
1歳1カ月

毎朝6時から元気いっぱい活動開始! 目覚まし時計が鳴る前にパパとママを起こしちゃいます。(中央、山下高徳・道子さんの長女)



荒井 綾香ちゃん
1歳

アーちゃん、お兄ちゃんたちにもまれているので、あまり泣かないけど、泣くと少々泣きやみません。(下今泉、荒井孝一・憲子さんの長女)

まんきる赤ちゃん

▼新春ジャンボかるた大会に100人



新春恒例のジャンボかるた大会が1月11日、門沢橋小学校グラウンドで行われ、親子連れなど100人が参加した。子供たちは勢いがつきすぎて、通り過ぎちゃった...と、新春のひとときを過ごした。

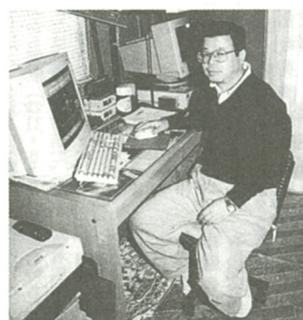
▶保育園でどんど焼き



1月14日、市内各地で「どんど焼き」が行われた。市内保育園では、今年1年の健康を祈つてと、焼きたてのだんごをおいしい!とほおばる園児の姿が見られた。

今月のプロフィール

海老名発世界へ向け!



インターネットの画面に
市内の情報を入力している
坂本 順一 さん
さかもと じゅんいち

最近よく聞く言葉「インターネット」。世界中からアクセスでき、情報を得ることができるこのシステムは、急速に活用されている。このインターネットのホームページに、海老名市内の情報を載せているのが坂本順一さん(上郷在住、47歳)。
ホームページの内容は、市内の見どころ・聞きどころ・ぶらり海老名、食べ歩きや、市の広報紙や刊行物からの情報など、市内に関する情報が満載。約50ページにもなる情報を、坂本さんは去年の3月から、毎日こつこつと作ってきた。画面中の写真は、すべて坂本さんが自分で撮影したもので、仕事が休みの日には、奥さんと愛犬のロンといっしょに、カメラ片手に取材に出かける。
「いろいろな場所を回っていると、海老名市が広く感じます。今まで知らなかった場所がたくさん見つかり、愛着がわいてきますね」と話す坂本さん。画面の充実に伴って

▼歩くといつも競技となると、その速さにはビックリ! 浅野さんの姿を追いかける方は走って息が切れるほどでした。少々かぜ

編集後記

味の私はこの寒さにブルブル、鼻を真っ赤にしていたのに、浅野さんは汗をかいて意気軒昂。何とも情けない限りです。(茂)

坂本さんのインターネットアドレス
<http://www.airnet.or.jp/sakamoto>
電子メール
sakamoto@airnet.or.jp